

10日間の
特別祈禱

【5日目】靈的な人、肉的な人 ～違いはどこにあるのか？



【テーマ聖句】

「しかし、わたしたちはキリストの思いを抱いています。」（コリントの信徒への手紙1 2章16節）

2021年1月10日(日)

靈的クリスチャンか肉적クリスチャンかを定義する前に、私たちは「罪人」と「罪のない人」について語っているのではない、ということを知る必要があります。すべての人は、靈的であれ肉적であれ、同じように救い主を必要としている罪人です。私たちの義は、ただ主から来るものです。あなたが一方のグループに属するか、あるいは別のグループに属するかの基準は、聖霊と私たちの個人的な関係によるものです。神は、私たちが天とつながりつづける限り、聖霊との関係が断たれることがないように制定されました。（マタイによる福音書12章32節）

エレン・G・ホワイトは、次のように説明しています。「聖霊の働きをこぼむ者は、悔い改めと信仰のどこかいないところにわが身をおいているのである。神が心に働かれるのは、みたまによってである。」（『各時代の希望』中巻 38ページ）。

次のことを正しく理解することは価値のあることです。靈的なクリスチャンか肉的なクリスチャンかを吟味する対象人物は、自分ただ一人であるということです。神は、人の心を造り変えることがおできになるので、私たちが周りの教会員にレッテルを貼るのは間違いです。もし、主があなたの心の中に啓示された「あなた自身の本当の姿」を見てすっかり失望したなら、そのときこそ、主があなたを造り変えてくださる時なのだとことを覚えてください！

靈的な教会員

靈の人は真のクリスチャンです。彼が「靈の人」と呼ばれるのは、聖霊によって満たされているからです。靈的な人は、その人の個人的な聖霊との関係によって特徴づけられています。彼は聖霊によって成長する良好な関係を築いています。「靈の人は一切を判断しますが、その人自身はだれからも判断されたりしません。『だれが主の思いを知り、主を教えるというのか。』しかし、私たちはキリストの思い（*靈）を抱いています。」（コリントの信徒への手紙1 2章15、16節 *括弧内は著者によるもの）

キリストが「生活の中心」であり、心の真ん中にキリストがおられます。靈の人は完全にキリストのために生き、日ごとに、毎朝、すべてのことについて自分自身を献げているのです。ラオデキヤへの手紙の中では「熱い」部類に入りますし、十人のおとめのたとえ話の中では「賢い」おとめです。（ローマ人への手紙8章1～17節とガラテヤ5章にももう少し詳しく記されています）命を「豊かに受ける」（ヨハネによる福音書10章10節）経験をする人であり、パウロによれば「神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされる」人なのです。（エフェソの信徒への手紙3章19節）彼は「信仰によって救われ（た）」ことを喜んでいます。（同2章8節）彼は挫折と誘惑に遭いますが、自分の目を常にイエスに向けています。

肉的な教会員

肉的な人は、神との分裂したみせかけの関係を持っています。彼は、心の内でひそかに聖霊に無関心であるか、あるいは公に反抗的です。ここで使徒パウロが言わなければならなかったことがあります。「兄弟たち、わたしはあなたがたには、靈の人に対するように語りことができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。ある人が『わたしはパウロにつく』と言い、他の人が『わたしはアポロに』などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。」（コリントの信徒への手紙1 3章1～4節）

ここで定義される基準は、私たちの聖霊との関係であると結論づけることができます。肉的な人とは、肉によって生きる人、つまり聖霊によるのではなく、生まれながらの肉間的な力によって生きる人です。そして、最大の悲劇は、永遠の命を受け取ることを選んでいない、ということなのです。(ローマの信徒への手紙 8 章 9 節)

パウロが肉的な人に対して「兄弟たち」と話しかけているのは、教会員に対して話しかけているからです。パウロは彼らに「霊の人に対するように」語ることができませんでした。つまり、聖霊に満たされていないか、満たされていたとしてもその満たしが不十分なのです。そこで乳飲み子である人々に対するように話さなければなりません。つまり、信仰において成長が十分ではないのです。聖書について多くの知識を持っていたとしても、霊的に成長していないこともあるのです。教会に長年通い続けている人も、肉的な教会員でありつづけることは可能です。霊的な成長というのは、キリストに完全に献身し、聖霊の導きの内に自分の生活を置くことで初めて起こることです。多くの肉のクリスチャンたちは、彼らの霊的生活の中で、不満、失望、目的の欠如を感じています。彼らの幾人かは、無感動のうちに言います。「私たちはただの罪人です。でも、それについて何もすることができません」と。

ほかに、肉的なクリスチャンには熱狂的な人がいて、聖書の真理の知識を喜びと感じています。とても積極的に活動し、地方教会ではリーダーの役割を果たし、人の上に立つ立場の人もあります。神様のために忙しく奉仕をしている人もいます。「かの日には、大勢の者が私に、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』」(マタイによる福音書 7 章 22、23 節)

何が問題なのでしょう？

彼らは、イエスとの個人的な関係と、聖霊との生きたつながりを持っていなかったのです。もしあなたが今、自分が肉のクリスチャンだと気づいたなら、元気を出してください！ たった今、あなたの内に新しい命が始まろうとしているのです。多くの肉のクリスチャンたちは、無意識のままでこの状況にいますが、あなたはより深い信仰の経験を求めて祈っているのです。イエスは、「あなたがたの喜びが満たされる」ようになることを願っておられ(ヨハネ 15 章 11 節)、永遠の命という堅固な希望の中で憩うように、あなたを招いておられるのです。

【神の御言葉によって祈る】

私たちは今、肉のクリスチャンですが、それでも希望があります

「兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にするのができなかったからです。いや、今でもできません。相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。」(コリントの信徒への手紙 1 3 章 1～3 節)

主よ、この聖句の中に「相変わらず」という言葉が含まれていることを感謝します。なぜなら、この言葉は現状に留まり続ける必要はないということを私たちに思い起こさせてくれるからです。私を今日、あなたに造り変えていただきたいと望みます。私たちが聖霊の中で生きるときに、ねたみや争い、分裂は消滅していくとのお約束に感謝します。

私たちは、肉的な動機で求めているのでしょうか？

「得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。」（ヤコブの手紙 4 章 2 下句、3 節）

主よ、私たちが聖霊を求めようとしなかったために、私たちは霊的貧困の中に生きています。あるいは求めるときにも、自己中心的で人間的な動機で求めているのです。私たちの祈りを変えてください。そして私たちをみ霊によって導いてください。

【更なる祈りの提案】

感謝と讃美： 具体的な祝福を感謝し、神の憐れみのゆえに讃美をささげましょう。

告白： 個人的な告白のために時間を取り、神の赦しのゆえに感謝をささげましょう。

願い： 私のチャレンジと決心のために、神様が知恵を与えてくださるよう祈りましょう。

教会のために： 私たちの教会、地域の教会、世界中の教会の働きを神様が祝福してくださるよう祈りましょう。

人々の必要のために： 教会員、家族、隣人の必要のために祈りましょう。

静かに耳を傾け、

応答しましょう： 神のみ声を聞くために静かな時間を過ごし、讃美と歌で応答しましょう。